

今後の学校における キャリア教育の在り方について —PART 2 各論(③高等学校編)—

収録日:平成23年12月15日



文部科学省 初等中等教育局
児童生徒課 生徒指導調査官
教育課程課 教科調査官



国立教育政策研究所 生徒指導研究センター 総括研究官

藤田 晃之

CAREER EDUCATION



平成22年2月



平成23年11月



平成23年11月

高校生期のキャリア発達の課題と インターンシップ



CAREER EDUCATION

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

	小学校	中学校	高等学校	大学・専門学校・社会人
	〈 キャリア発達段階 〉			
就学前	進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期	
	<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望, 憧れる自己のイメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観, 職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加 	



Q4

高等学校におけるインターンシップ (就業体験活動)は、中学校の職場体験活動と どう違うのでしょうか？

A4

中学校における職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に向き合い、高等学校におけるインターンシップは、将来進む可能性のある職業に関連する活動を試行的に体験することを通して社会人・職業人への移行準備に役立てることが、それぞれ中心的な課題となります。この点が両者の主な違いと言えます。

けれども、地域の状況などによって、このような違いを打ち出すことが難しい場合もあるでしょう。特に、中学校と同じ事業所(地域の食品スーパー等)で体験する場合、生徒が自らの成長や発達を踏まえて、中学時代とは違った視点から体験をとらえられるような指導が求められます。例えば、従業員の方々とのかかわり方においても、自らの職業理解能力やコミュニケーション能力などを確認する機会を設けることで、高校生としての発達の段階に相応しい体験が可能になります。さらに、食品の衛生や安全に関する知識(家庭科)、経済の仕組みに関する知識(公民科)など、学校での学習と関連付けることによって、中学校では出来なかった就業体験が可能となり、生徒に自己有用感や達成感を実感させることができるでしょう。中学校での職場体験活動を踏まえながら、発達の段階に応じた工夫をすることで、自己の職業適性や進路についてより深く考察する、意義のある活動になります。

事例 1 静岡県立韭山高等学校

1 普通科高校における将来を見据えた職業観の育成

- *「つなげる」をキーワードに社会と自分、高校生活と自分の未来をつなげることを目指す。
- *校長・副校長も加わる「キャリア教育推進委員会」を設置し、組織的にキャリア教育を展開。
- *1年生全員がインターンシップ、職業人インタビューのいずれかを体験。
- *主なインターンシップ先は、研究所、病院、薬局、銀行、放送局、広告代理店、司法書士事務所など。
- *事前・事後学習の充実を図り、体験後には代表者が学年集会で発表して情報を共有する。
- *インターンシップと学業成績との関連について分析するなど、キャリア教育の効果の実証を試みる。

学校紹介：明治6年創立 普通科・理数科設置、生徒数895名(平成21年度) / 「進学校における組織的なキャリア教育の取組」について独自に研究。系統的なキャリア教育の一環にインターンシップなどの体験活動を位置付け、学習意欲の向上、進路意識の向上を図っている。

参考資料：文部科学省教育課程課編集「中等教育資料」平成22年1月号(第2特集 キャリア教育の充実)

【体験談】

- 格好いい儲かるから医者になりたい、一生安泰だから公務員になりたい、どうせやりたいことがないから普通のサラリーマンでいいなど、そういった私利私欲で職業を目指すのではなく、その職業に就くことによって皆のために何ができるのかという他者に対する意識が必要だと分かった。(司法書士事務所で体験)
- 経験や知識だけでなく、体力や精神力も必要だと分かりました。部活に励んだり、授業に集中したりと身近なところからその二つは鍛えられると思います。日々の努力が将来につながると思えば、学校生活と社会生活を大切にしていきたいです。(病院で体験)

事例 2 秋田県立能代高等学校

2 生徒の自己効力感を高める取組が充実、文武両道が校是の伝統校

- *総合的な学習の時間「Will Project」を中心にキャリア教育を展開。
- *大学等の高等教育機関卒業後の就職を念頭に、2年生終了までに全員がインターンシップを実施。
- *職業の実際を体験し、学業等の学校生活に対する主体的な態度の育成を目指す。
- *4月～9月にかけて、組織的・計画的な事前指導・事後指導を実施。生徒の自主性を尊重した体験先の選定。
- *全員が「インターンシップレポート(A3判1枚)」を作成。クラス発表、学年発表を通じた情報の共有。

学校紹介：大正14年創立 普通科・理数科設置、生徒数690名(平成21年度) / 文部科学省指定「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究」指定校。インターンシップの他、社会人講話、スクールマナー集会、職業研究・学部学科研究、大学出前講座、ライフプランなど、キャリア教育に関する多様な取組を実践し成果を得ている。

参考資料：秋田県立能代高等学校「Will Project」におけるキャリア教育の取組 平成20年度実施報告書(同校ホームページ <http://www.noshiro-h.akita-c.ed.jp/> よりダウンロード可能)

【体験談】

- 「国際協力は相互扶助の関係であり、途上国から輸入している日本は他の国々を援助して当然。ODAを全てカットすれば10年後の日本はない」というJICA職員の言葉が印象に残っている。ボランティアが偽善でないことに確信が持てた。自分が貢献できることを見つけたい。(JICAで体験)
- 看護師になりたい気持ちが一層強まりましたが、そのためには学力はもちろん、コミュニケーション能力が不可欠だと痛感しました。学校での生活態度に気をつけ勉強に励みたいです。(病院で体験)

参考1

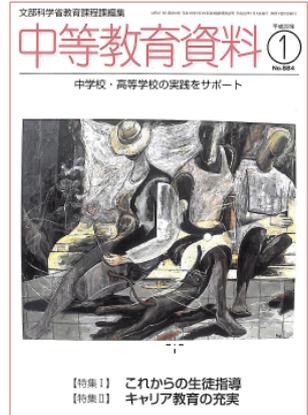
静岡県立
 韮山高等学校
 普通科・理数科
 明治6年創立

三 学業成績推移

インターンシップと学業成績との関連性をはっきりと示す調査結果はいまのところ提示できる段階ではないが、ここでは、二つの調査結果を示すこととする。

インターンシップ参加者の外部模試偏差値平均と学年全体のそれを一年間追跡した結果、七月の模試ではインターンシップ参加者の平均値が学年全体を〇・五ポイント上回るにとどまったが、二月の模試ではその差が二・〇に拡大していた。

高校入試結果と二年後の学年末の成績を比較すると、前期合格者（難易度の高い入試問題で合格した生徒）のうち、インターンシップ参加者の七割以上の生徒の成績が上昇しているのに対し、前期試験で合格してもインターンシップに参加しなかった生徒はその七割が成績を下げってしまった



【特集1】 これからの生徒指導
 【特集2】 キャリア教育の充実

た。これは、高校入試の時点では優秀だった生徒でも、動機を高める適切な機会が与えられないと、成績の維持は難しいこと、また逆に、モチベーションを高める機会を与えると成績も向上することを示唆している。

四 進路実績の例

表 インターンシップ参加者 / 最難関大学現役合格者人数

20年度入試	6人 / 14人	42.9%	(学年全体での参加率 15.7%)
21年度入試	9人 / 12人	75.0%	(学年全体での参加率 31.4%)

な原動力となつていると考えられる。

インターンシップ参加者は、多くの生徒が第一志望の大学に合格をしているが、ここでは、最難関大学（東大・京大・京大医学部）現役合格者うちの、インターンシップ参加者の占める割合を示すこととする。これを、学年全体におけるインターンシップ参加者の占める割合と比較すると、約二・五倍になっていることが分かる。最難関大学を目指す生徒にとってインターンシップは、目標達成の大きな

1 Will Project の策定

平成18年度に、本校の将来構想委員会は、およそ9ヶ月をかけて Will Project（資料はp. 4）を策定した。策定に至る経緯は次の通りである。

本校は、能代市という地方都市にあって、進学校の位置にあることから、進学者の質と量の拡大が常に重点課題になっている。数年前に国公立大学への進学者数が2桁に後退した時期があったが、昨年度から3桁に回復している。この間、「すべては生徒の幸せのために」という合い言葉のもと、教職員は生徒の希望を叶えるべく、授業を第一に考えて学力向上を目指してきた。そして、朝学習、土曜学習、放課後補習、夏季補習（3年生は20日、1・2年生は10日）、冬季補習（夏季と同じ日数）、小論文指導、添削指導など、考えられるだけの課外指導もこなししてきた。また、難関大プロジェクトを立ち上げ、学習の核になる生徒を意図的に育ててきた。その甲斐あって、今年は東京大学や京都大学、一橋大学へも合格者を出せるまでになった。

こうした流れの中で、課題と感ぜられるものも見えてきた。明確な目的意識をもって進学を志す生徒が少なくなってきたこと、自発的な学習習慣が身に付いていない生徒が多くなってきたこと、それに教職員側も、偏差値重視の指導や課題を与えるだけの指導では、これ以上飛躍的に生徒を伸ばすことには限界があると感じるようになってきたこと、などである。



参考2

秋田県立
 能代高等学校
 普通科・理数科
 大正14年創立

「自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める指導方法の充実」を研究課題として①②③に示す調査研究を行う

- ① キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
- ② キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用及びその活用の在り方
- ③ その他

普段の学校生活を キャリア教育に活かそう



CAREER EDUCATION

常に頭に置くべきこと

〈平成23年1月31日 中央教育審議会答申より（Part 1からの再掲資料）〉

- 各学校の教育課程への位置付け(再掲)
 - ここで留意すべきは、キャリア教育はそれぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むものであり、単に特定の活動のみを実施すればよいということや、新たな活動を単に追加すればよいということではないということである。(中略)また、各教科等における取組は、単独の活動だけでは効果的な教育活動にはならず、取組の一つ一つについて、その内容を振り返り、相互の関係を把握したり、それを切に結びつけたりしながら、より深い理解へと導くような取組も併せて必要である。さらに、各教科等における取組だけでは不足する内容を把握し、その内容を付け加えていく取組も必要である。

やみくもにがんばらない



- 例えば、キャリア教育を通して育成する基礎的・汎用的能力の一つである「課題対応能力」には、情報を正しく理解するための能力が含まれるが、この力を育成する機会となり得る教育活動は数多い。
 - 「国語総合」の「読むこと」では、文章の内容を叙述に即して的確に読み取することは主要課題の一つであるし、「地理A」「地理B」における地図の読図や衛星画像・空中写真の読み取り、「理科」の各科目における観察や実験の過程での情報の収集や実験データの分析・解釈などもその具体例となろう。また、授業中に板書された課題文を正しく読み取ることなどまでを視野におさめれば、情報を正しく理解するための能力の育成に寄与し得る教育活動は、文字通り無数にある。
- キャリア教育の実践の機会となり得る単元や教育活動を広く見出し、それを列挙することは、教科を通したキャリア教育の年間指導計画の作成にとって有効な基礎作業の一つであるが、このような作業によって挙げられた膨大な数の単元等を、例えば一覧表型式に整理したとしても、それをそのまま指導計画として見なすことできない。(続く)

やみくもにがんばらない



- なぜなら、その一覧は、キャリア教育の実践の機会として活用し得る可能性が高い場の羅列に過ぎず、キャリア教育の一環としての教育意図に基づく指導実践の計画にはなっていないからである。また「洗い出し」の作業を丹念にすればするほど、キャリア教育の「断片」となり得る機会とはほとんどすべての教育活動に見いだされることとなり、「これまでどおりの教育のままでよい」という誤解を助長する結果にもなりかねない。



キャリア教育の実践主体(=先生方)が、意図的に体系を設定し、その体系を意識しつつ実践し、それを生徒たちに明示的に伝えてこそ、計画的・系統的なキャリア教育になる。「今」「この学年・このクラスで」伝えるべきこととは何かを意識し、それを生徒と共有することが何より重要。それにふさわしい単元の選定と焦点化が不可欠。



3 職業教育を通じたキャリア教育の重要性

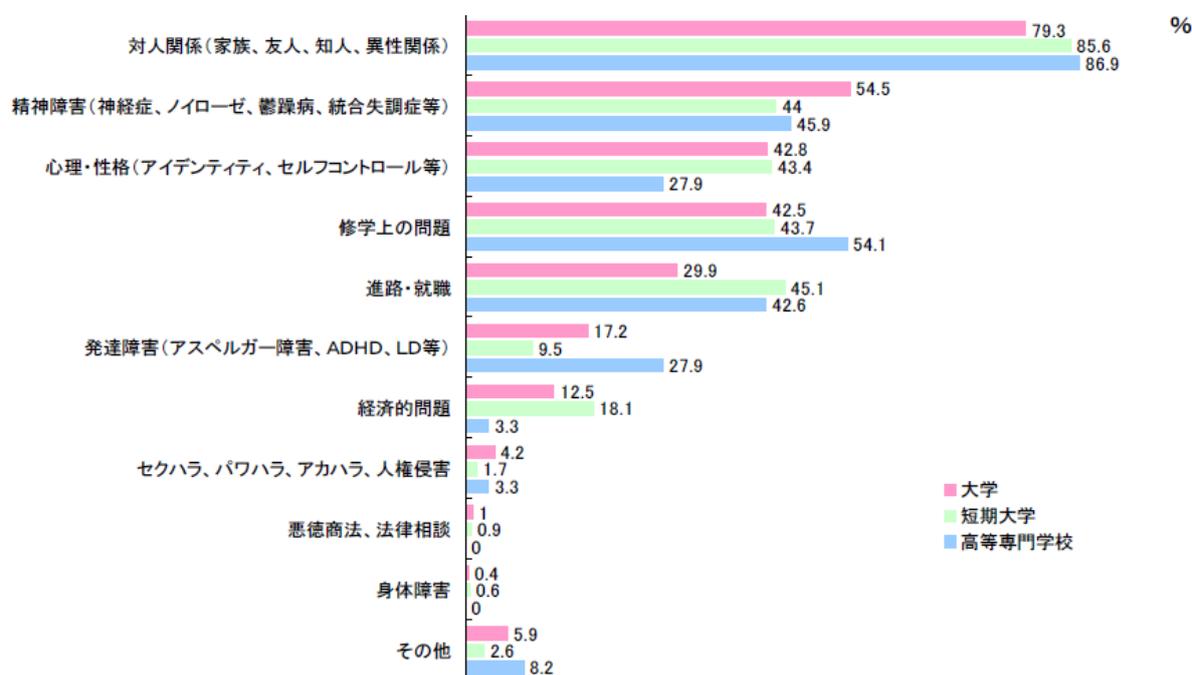
本節冒頭で整理した通り、キャリア教育は普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施され、当然のことながら、そこには職業教育も含まれる。職業教育は、キャリア教育の中核的な役割である社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上でも極めて有効な機会である。

例えば、商業における「ビジネスマナーとコミュニケーション」は、人間関係形成・社会形成能力を高める場としても重要であり、人に直接関わる職業について学ぶ福祉や看護等においても、それぞれの専門性を生かしたコミュニケーション・スキルの向上に寄与する豊かな学習機会がある。また、それぞれの職業に関する専門教科における「課題研究」は、課題対応能力を高めるに留まらず、自らの興味・関心につながる学習の意義を理解させ、自律的な学習態度を育成するという点において自己理解・自己管理能力も向上させるという重要な役割を担っている。さらに、全ての職業に関する専門教科において、それぞれの産業分野におけるスペシャリストとして働くことや、職業人としての将来設計に関わる具体的な能力を高める様々な学習が展開されているが、それは正にキャリアプランニング能力を高めることに大きく貢献すると言えよう。

今までの教育実践を振り返ろう

- 【例】人間関係の形成は、社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上で基礎となるもの
 - 特に、価値の多様化が進む現代社会においては、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍しており、様々な他者を認めつつ、それらと協働していく力が必要
- 
- 特別活動の出番
 - よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成の重視
 - 体験活動や話し合い活動、異年齢集団による活動、ピアサポートの機会等の充実

学生の相談内容が示すもの



(出典) 日本学生支援機構「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」(平成20年度)

特別活動の目標

- 高等学校学習指導要領 第5章 特別活動
 - 第1 目標
 - 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

ホームルーム活動の内容(抄)

(2) 適応と成長及び健康安全

- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

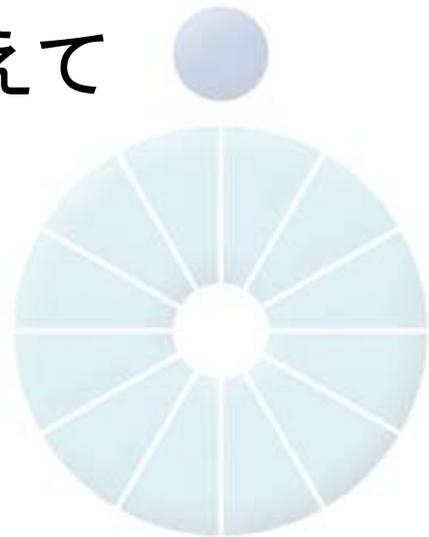
(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

受験のための指導もキャリア教育たり得る

- 受験指導や受験勉強も、キャリア教育の一環として位置づけることは十分可能
 - 例えば、「課題対応能力」(課題発見、計画立案、実行力)や、「自己管理能力」(忍耐力、ストレスマネジメント)
- 生徒たちは、これらの能力を意識できているか？
- 「基礎的・汎用的能力」における「偏り」をどう捉えるか？

まとめにかえて



そもそも高校教育の目標とは何か

学校教育法

第51条 高等学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

1. 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。
2. 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。
3. 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

中央教育審議会

答申(平成23年1月31日)の指摘

- 確かに、変化の大きな社会の中では、高校生の段階で自らの将来を設計しても、その後、将来設計が変化していくことは当然である。しかし、そのことは高校生の段階で自らの将来のことを考える必要はないということではない。これから数多く経験するであろう人生の岐路を乗り越えるためには、高校生の段階で、自らの将来を真剣に考え、それに必要な情報を取捨選択・集積・分析し、熟慮の上に責任を持った判断をする過程を経験させることが重要である。職業を意識した時期が早いほど、大学への進学理由や将来の目標を明確に持ち、将来の社会での姿を思い描けている傾向があるという調査もあるように、高等教育機関への進学を希望する者が多く占める学校においても、キャリア教育を充実していくことは必要である。

大学への進学理由(職業を意識した時期別)

職業を意識した時期が遅い者ほど、大学への進学理由を「すぐに社会に出るのが不安」「自由な時間を得たい」「周囲の人がみな行く」と考える傾向

